

郷土福島の人物を調べる <vol.2 時代別編>

郷土の歴史は、そこに生きた人びとの歴史でもあります。そのため、地域の成り立ちや発展を調べる上では、人物調査が非常に重要なポジションを占めているといえます。

<Vol.2 時代別編>では、近世以降における人物を時代別で調査するのに役立つ資料をご紹介します。郷土の人物を総合的に調べたい場合はVol.1を、人物の職業ジャンルを手掛かりに調べたい場合はVol.3をご覧ください。

Rがついているのは、館内でご覧いただく資料です。貸出しておりません。

【近世の人物を調べる】

江戸時代の福島は、複数の藩と幕府によって治められていました。そのため、人物調査に関しては領地ごとの史料を当たるのが有効です。

福島県史 第8巻・第9巻・第10巻(上・下巻) 近世資料		福島県	1965-1968	L210.1/F1/1-
県史の第8巻・第9巻・第10巻(上・下巻)には近世の史料が藩ごとにまとめられており、藩士は主に「分限帳」と呼ばれる藩士名簿から、領民は検地帳等の史料にその氏名が見られます。各巻の収録藩は下記のとおりです。 8巻:磐城平藩・泉藩・湯長谷藩・小名浜領・白河藩・越後高田領・棚倉藩・塙領 9巻:相馬藩・福島藩・桑折藩・梁川藩・川俣領 10巻上:二本松藩・三春藩・守山藩・下手渡藩・下村藩・分領 10巻下:会津藩・南山御蔵入領・長沼藩・大久保藩・三枝領・神領 なお、各市町村史の資料編にも県史に掲載されていない資料が載っている場合があります。併せてご確認ください。				
三百藩家臣人名事典 第2巻	家臣人名事典編纂委員会/編	新人物往来社	1988	L281.03/S4/1
慶長5年(1600)～明治4年(1871)までの家臣事典。福島県は会津藩、下手渡藩、下村藩、白河藩、棚倉藩、福島藩、三春藩、守山藩の8藩が収録されています。巻末に人名索引あり。				

◆藩ごとに調べる

<会津藩>

要略 会津藩諸士系譜 (上・下巻)	芳賀幸雄/編著	歴史春秋出版	1997,2001	L288.2/H/1-
会津藩士1,085家の系譜をまとめた『諸士系譜』(会津若松市立会津図書館蔵)を読みやすく要略したもの。文政6年(1803)当時の会津藩士に関する各種情報(役職・家紋等)及び各家の系譜を、当主名の50音順に掲載しています。				
慶応年間 会津藩士人名録 附 斗南藩職員録 [復刻版]	会津郷土資料研究所/編	勉強堂書店	1992	L281.6/A10/1
慶応年間(1865～1868)の会津藩士を役職・石高と共に記載しています。明治維新以後の「斗南藩職員録」及び「若松縣職員録」の附録あり。				
会津藩家世実紀 人名索引 (上・下巻)	田代重雄/編著	歴史春秋出版	1995	L216/K11/17-
文化年間、会津藩の手によって編纂された藩史『会津藩家世実紀』。寛永8年(1631)～文化3年(1806)の出来事が編年体で記された、全278巻の大作です。この索引では、人物名だけでなくその役職や記事に登場した事由等についても知ることができます。武士はもちろん庶民の名前も多数登場しており、幅広い調査が可能です。				
会津人物文献目録[1], 2	野口信一/編纂	歴史春秋出版	1980,1992	L281.6/N3/1-
会津人および会津関係者の伝記に関する文献を、人物の簡単なプロフィールとともに紹介。近世～近代における会津人調査の第一歩として有用です。2巻合わせて5,401項目の個人伝、家伝を収録しています。				

<相馬藩>

相馬市史資料集 特別編 衆臣家譜 (全18巻)	相馬市/[編]	相馬市	2005-2012	L219/S9/8-
藩命によって天保10年(1839)に作成された相馬藩の家臣系図。姓・氏・氏神・鎮守・家紋・幕紋・旗紋・菩提所に加え、各人の閥歴(禄高、役職等)が記載されています。				

〈三春藩〉

	春陽の士 奥州三春秋田家御家中	三春町歴史民俗資料館／編	三春町歴史民俗資料館	2005	L281.4/M3/1
	p.13-42「秋田家御家中」 三春藩士の系譜等について記した『世臣譜』『続世臣譜』『春士秘鑑』『春陽士鑑』をまとめた資料です。藩士の出自や歴代当主名、禄高や屋敷所在地等が姓の50音順で記載されています。				
R	明治四年 明治六年 三春藩士人名辞典	古今堂書店古典部／編	古今堂書店	1933	L281.4/K1/1
	明治維新後の藩士一覧です。「辞典」と銘打たれていますが、内容は分限帳に近いものとなっています。				

〈二本松藩〉

	二本松藩史	二本松藩史刊行会／編	臨川書店	1992	L212/N5/1
	p.303-497「第三編 列伝」 武士・学者・医師・神官僧侶等が身分を問わず紹介されています。				

【近代(明治～戦前)の人物を調べる】

R	福島県人名辞典	時事通信社編輯局／編	時事通信社	1914	L281.03/J1/1
	明治～大正時代にかけて活躍した県人の人名辞典。いろは順で配列されており、人物によっては肖像写真も掲載されています。県の偉人・朝河貫一もイェール大学教授として登場。				
	都道府県別資産家地主総覧 福島編 (全2巻) [復刻版]	渋谷隆一／編	日本図書センター	1995	L281.03/S5/1-
	明治～第二次世界大戦終了時まで発行された資産家名簿・地主名簿・長者番付の集成。福島編では明治21年(1888)～昭和5年(1930)の全11資料を復刻・掲載しています。				
	明治の士族 福島県における士族の動向	高橋哲夫／著	歴史春秋出版	1980	L210.6/T6/1
	「第3章 士族の出仕者」 維新後、藩士たちは士族となり、県へ出仕することとなります。この資料では会津藩をはじめとする10藩の出仕者名がまとめられており、明治初頭の士族の氏名・役職を知ることができます。				
R	福島県名士肖像録	遠藤永吉／編	高橋要吉	1904	L281.03/E1/1
	明治後期における県下全域の名士の肖像写真を、町村別にまとめたもの。政治家・医師・神職や商人等が掲載されています。				
R	福島県紳士紳商録	福島県紳士紳商録刊行会／編	福島県紳士紳商録刊行会	1930	L281.03/F15/1
	県内在住の名士の他、東京・仙台・大阪・樺太在住の県人も加えた約1,000名を紹介した資料です。「法人ノ部」では、当時の県内企業情報についても知ることが出来ます。				

【現代(戦後～平成)の人物を調べる】

	現代福島県の文化事典 人物編	福島県文学会企画部／編	現代福島県文化事典刊行会	1953	L281.03/F6/1
	経済・社会・文化・教養・芸術・政治の6篇で県人を紹介しています。巻頭に人名索引あり。				
	福島県を担う人々	福島民報社	福島民報社	1954	L281.08/F3/1
	昭和29年末時点における県内政財界の中心的人物265名を、地区別に整理し紹介したもの。各人の辿ってきた人生を、インタビュー内容を交えながら紹介しています。				
	福島県名士録	福島県名士録編集委員会／編	福島民友新聞社	1966	L281.03/F13/1
	県出身の名士620名を、写真や略歴等とともに50音順で紹介しています。				
	現代福島人名録	財界21事業本部／編	財界21	2002	L281.03/Z1/1
	政治、経済、官界、文化の各分野で活躍する県人を「2001年の1000人」として選出。役職や出身大学、略歴等を掲載しています。				
R	福島県 人物・人材情報リスト	日外アソシエーツ株式会社／編集	日外アソシエーツ	1994-2017	L281.03/F17/
	出版年時点で活躍している人物を中心に、物故者および在日外国人も含めた著名人約3,000名を収録。略歴等の基本情報の他、その人物が掲載された図書・新聞の見出し情報も付記されています。いま現在活躍中の福島県人を知る上で、特に有用な資料です。隔年刊。				
	みんゆうデータブック(旧:福島県年鑑)	福島民友新聞社／編	福島民友新聞社	1947-2015	L059/F1/
	民報年鑑(旧:福島県市町村年鑑)	福島民報社／編	福島民報社	1951-2017	L059/F2/
	多分野に渡っての職員名簿・人名録が掲載されています(年代により資料形式に若干の差異があります)。				